

阿部野

広瀬旭莊

興亡千古英雄を泣かしむ

虎鬪龍争夢已に空し

問わんと欲す南朝忠義の墓

蒼花秋は仆る野田の風

【作者】廣瀬 旭莊(一八〇七〜一八六三年)名は謙、字は吉甫(きちほ)、通称謙吉、旭莊は号。淡窓の末弟。兄淡窓と亀井昭陽に学ぶ。

のち大阪に住み、兄淡窓と共に詩名東西に鳴る。才氣横溢(おういつ)、長篇大作を遺(のこ)す。勤王の志厚く諸侯の招聘(しょうへい)を断り撰津池田に退隱、一八六三年(文久3年)八月没す。年五十六歳。

【語釈】\*千 古:遠い昔 とこしえ 永遠 \*虎鬪龍争:龍虎の鬪争 敵味方戦うこと

\*南 朝:吉野朝ともいう。後醍醐天皇延元元年神器を奉じて吉野に遷幸(せんこう)せられ、爾来後村上 長慶 後龜山の三帝まで吉野賀名生(あのう)に行在所(あんざいしょ)があり 元中(げんちゆう)九年(一三九二年)北朝の後小松天皇に攘夷(じょうい)されるまでの五七年間をいう。

【通釈】史上の盛衰興亡は、とこしえに英雄をかなしませるものである。かつて、龍虎相戦った戦跡も今は空しく一場の夢に帰した。

それを知る手だてもない。私はここ阿部野に南朝の忠臣北畠顯家卿(きたばたけあいきえこう)の墓を訪ねてきたのであるが、秋風に野田(やでん)の薔花(ばげん)が吹き仆されたあたりの光景には、一段と寂寥(じくりょう)の感を催したのであった。